



第111期(2020年3月期) 第2四半期 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2019年12月4日

目 次

1. 第111期(2020年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第111期(2020年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 新製品紹介
- 基本情報

目 次

1. 第111期(2020年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第111期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2018年3月期末 (第109期末)	2019年3月期末 (第110期末)	2020年3月期末 (第111期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	20,522	20,028	19,627	▲401	▲2.0%
現金預金	5,619	5,380	5,591	210	3.9%
売上債権	11,575	10,974	10,260	▲713	▲6.5%
棚卸資産	3,231	3,338	3,449	110	3.3%
その他	95	334	326	▲8	▲2.5%
固定資産	15,133	13,757	13,023	▲734	▲5.3%
有形固定資産	8,486	7,528	7,385	▲143	▲1.9%
無形固定資産	43	32	28	▲3	▲11.7%
投資その他の資産	6,603	6,196	5,609	▲586	▲9.5%
資産合計	35,656	33,786	32,650	▲1,135	▲3.4%

※百万円未満切捨て

第111期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2018年3月期末 (第109期末)	2019年3月期末 (第110期末)	2020年3月期末 (第110期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,724	12,060	11,456	▲603	▲5.0%
仕入債務	6,875	6,898	6,304	▲594	▲8.6%
短期借入金	3,226	3,280	3,080	▲200	▲6.1%
その他	2,623	1,881	2,071	190	10.1%
固定負債	3,072	2,345	2,169	▲176	▲7.5%
長期借入金	1,305	715	668	▲47	▲6.6%
その他	1,767	1,629	1,500	▲128	▲7.9%
負債合計	15,797	14,405	13,625	▲780	▲5.4%
純資産	19,858	19,380	19,025	▲355	▲1.8%
負債及び純資産合計	35,656	33,786	32,650	▲1,135	▲3.4%

※百万円未満切捨て

第111期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

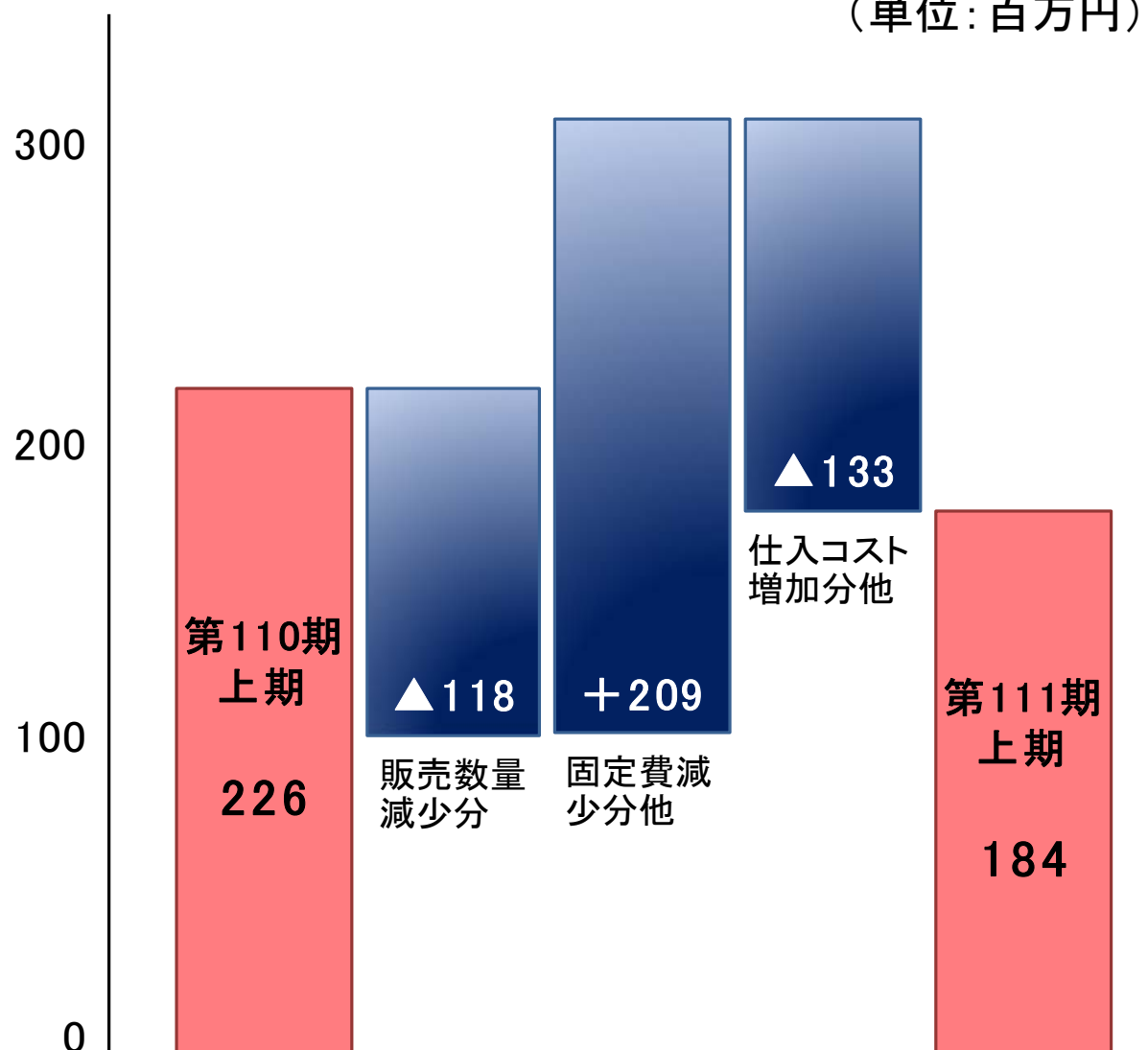
(単位: 百万円)

科 目	2018年3月期 (第109期) 第2四半期	2019年3月期 (第110期) 第2四半期	2020年3月期 (第111期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	16,677	15,824	15,297	▲527	▲3.3%
売上原価	14,291	14,044	13,592	▲451	▲3.2%
売上総利益	2,385	1,780	1,705	▲75	▲4.2%
販売費及び一般管理費	1,560	1,554	1,521	▲32	▲2.1%
営業利益	825	226	184	▲42	▲18.7%
営業外収益	109	181	136	▲45	▲24.9%
営業外費用	133	131	114	▲17	▲13.5%
経常利益	801	276	206	▲69	▲25.2%
特別利益	—	—	—	—	—
特別損失	—	—	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	801	276	206	▲69	▲25.2%
税金費用他	267	102	85	▲16	▲16.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	533	173	120	▲52	▲30.4%

※百万円未満切捨て

第111期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解

(単位：百万円)



販売面においては、価格要因による大きな増減はありませんが、販売数量の減少が1億18百万円の減益要因となりました。

費用面においては、掛川工場WESTの減損処理による減価償却費の減少や労務費その他の固定費削減等が2億9百万円の増益要因となりましたが、表面保護フィルム「SAT」の売上に占める仕入商品（関連会社製品）の比率上昇等が仕入コストの増加となり、1億33百万円の減益要因となりました。

その結果、営業利益は42百万円の減益となりました。

目 次

2. 各セグメントの概況

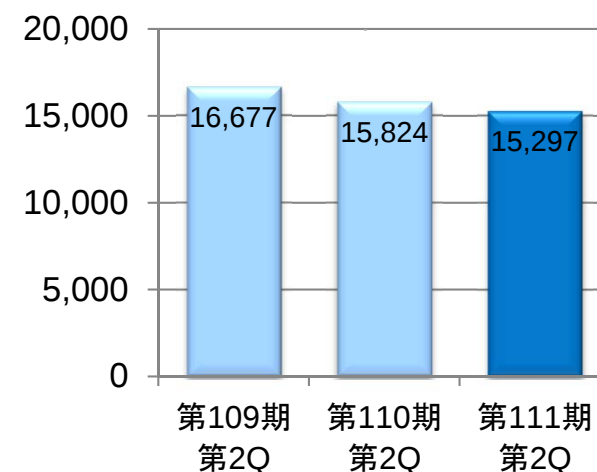
- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

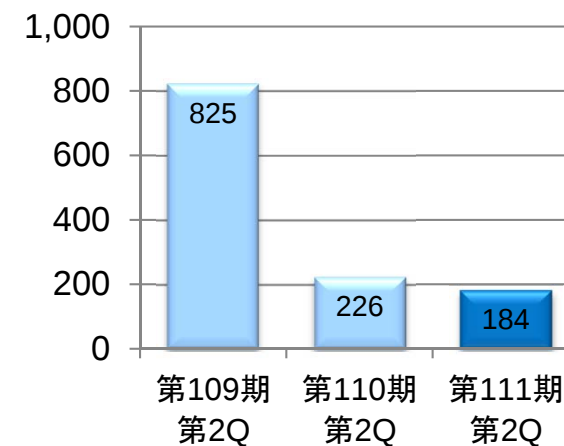
(単位：百万円)

科目／ セグメント	2018年3月期 (第109期) 第2四半期	2019年3月期 (第110期) 第2四半期	2020年3月期 (第111期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	16,677	15,824	15,297	▲527	▲3.3%
軽包装材料	6,902	6,680	6,144	▲535	▲8.0%
産業資材	3,577	3,332	3,573	240	7.2%
機能性材料	5,851	5,455	5,299	▲156	▲2.9%
その他	346	355	280	▲74	▲21.0%
営業利益	825	226	184	▲42	▲18.7%
軽包装材料	430	300	189	▲110	▲36.8%
産業資材	▲403	▲462	▲282	179	—
機能性材料	751	376	283	▲92	▲24.6%
その他	46	11	▲7	▲18	▲162.4%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※百万円未満切捨て

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

第2Q売上高
3,022百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 単身世帯増加により市場の拡大が期待

医薬品・医療器具関連

第2Q売上高
1,353百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢者増加により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

第2Q売上高
408百万円



詰替え用パウチの需要増に伴うニーズに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチの普及による需要拡大に期待

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材の拡販に期待

精密機器関連その他

第2Q売上高
1,360百万円



エア緩衝材の用途開発による顧客開拓を図る。環境対応製品の開発に注力。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

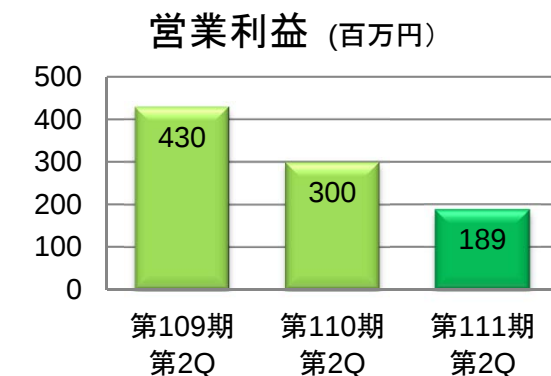
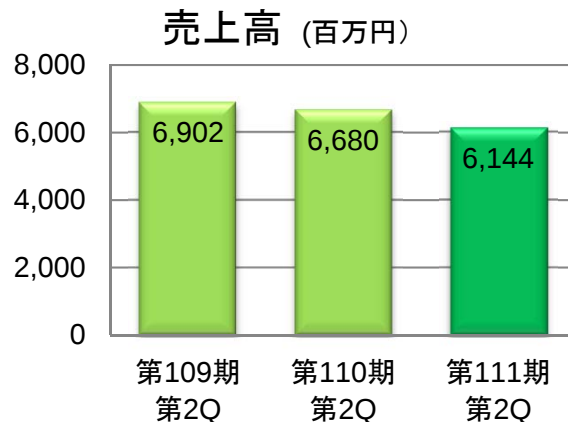
収益性・成長性

- 「エアロテクト」は顧客開拓が進むも、主力ユーザーの使用量削減の影響大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高： 6,144 百万円 （前年同期比 8.0 % 減）
- 営業利益： 189 百万円 （前年同期比 36.8 % 減）

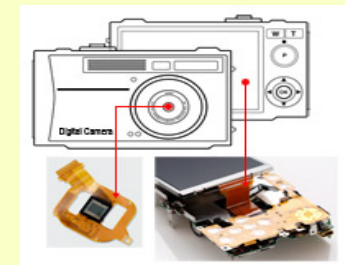
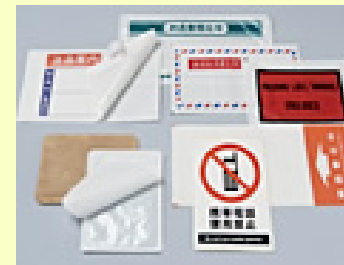


- 食品用包材は、電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」の新タイプが受注減少。清涼飲料用パウチも天候不順と競争激化で受注が伸び悩み、減収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTP包装用フィルム「テクニフィルム」が引き続き堅調で、増収。
- 洗剤・トイレタリー用包材は、詰替え用パウチの受注が減少したが、化粧品用包材の受注が増加し、僅かに増収。
- 精密機器その他の包材は、エアー緩衝材「エアロテクト」の受注減少の影響が大きく、減収。
- 比較的収益性の高い主要製品の減収が重なり、減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

第2Q売上高
790百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は横ばい

ラミネート布・ 布粘着テープ

第2Q売上高
1,027百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

第2Q売上高
1,755百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

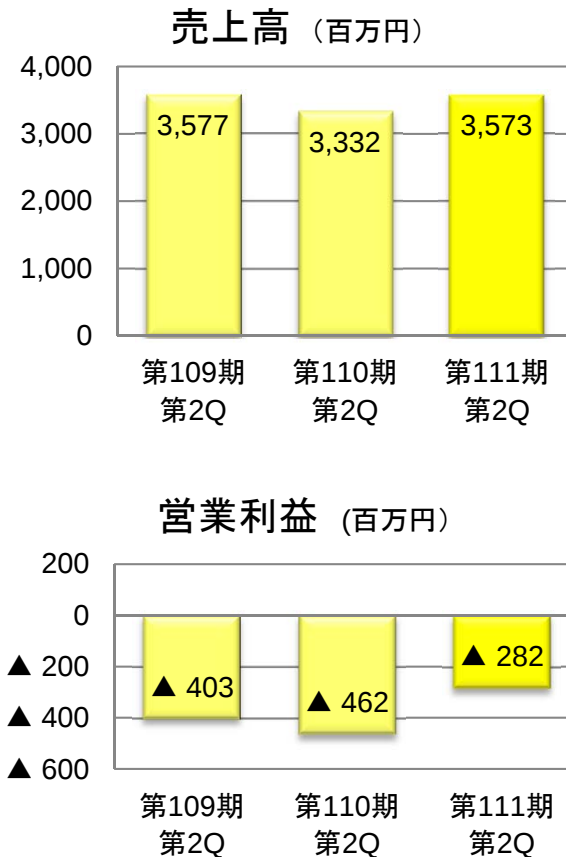
収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- FPC用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 3,573 百万円 （前年同期比 7.2% 増）
- 営業利益： ▲282 百万円 （前期実績 ▲462 百万円）



- 粘着テープ基材については、合理化による価格対応と顧客であるテープメーカーの拡販により受注が増加し、増収。
- 剥離紙については、自動車部品関連や一般用途の受注が堅調。スマートフォン市場の復調に伴いFPC（フレキシブルプリント基板）用工程紙の受注が回復し、増収。
- 掛川工場WESTの減損による償却負担の軽減や、比較的工程数の多い剥離紙の売上が増加したことで、設備稼働率が上昇し、営業損失が縮小。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料 (蘇州)有限公司



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

第2Q売上高
850百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 一般用途では、ユーザーの海外移転が進み、国内市場は縮小傾向

PAC

第2Q売上高
939百万円



2層押出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 偏光板用は一定の需要が見込めるも、品質要求は高度化
- 強粘着タイプの拡販が課題

SAT・ 粘着加工品

第2Q売上高
3,509百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

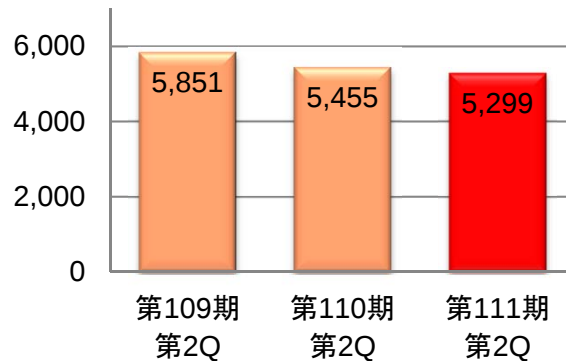
- 4K・8K対応に向け、長鼎電子材料を含むグループ全体の品質レベル向上が課題
- スマートフォン関連は受注量の変動大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

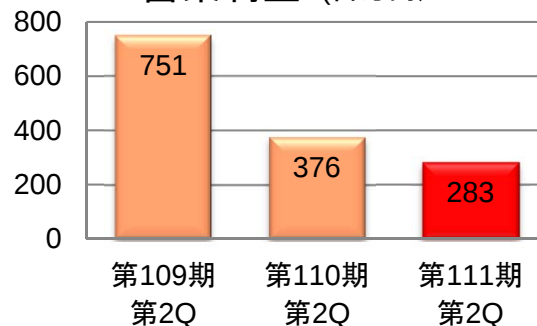
機能性材料

- 売上高： 5,299 百万円（前年同期比 2.9% 減）
- 営業利益： 283 百万円（前年同期比 24.6% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「サニテクト」については、PET基材の「NSタイプ」が一部ユーザーの仕様変更により、販売量減少。PO基材の従来タイプも、一部で他社製2層押出しタイプへの置替えによる案件減少を受け、減収。
- 「PAC」については、偏光板用途やスマートフォン関連の受注が増加し、増収。
- 「SAT」については、液晶テレビ関連が堅調。スマートフォン関連の復調に伴う受注増加もあり、増収。
- サニテクト減収による影響と、長鼎製SATの売上比率上昇に伴う自社製SATの生産量低下により、減益。

目 次

3. 第111期(2020年3月期)業績予想と今後の施策

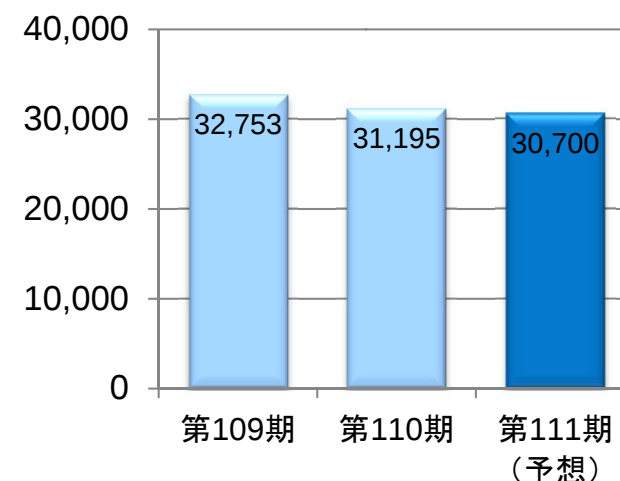
- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第111期業績予想と今後の施策：通期業績予想

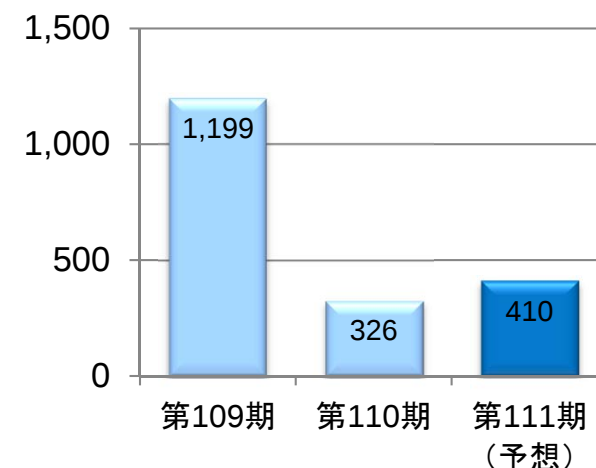
(単位：百万円)

科目／ セグメント	2018年3月期 (第109期)	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期) (見込)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	32,753	31,195	30,700	▲495	▲1.6%
軽包装材料	13,114	12,632	12,200	▲432	▲3.4%
産業資材	7,269	7,045	7,600	554	7.9%
機能性材料	11,690	10,873	10,300	▲573	▲5.3%
その他	678	643	600	▲43	▲6.7%
営業利益	1,199	326	410	83	25.7%
経常利益	1,134	587	480	▲107	▲18.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	887	185	270	84	45.4%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※百万円未満切捨て

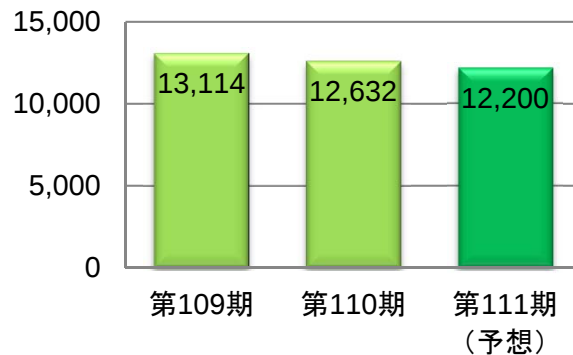
第111期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

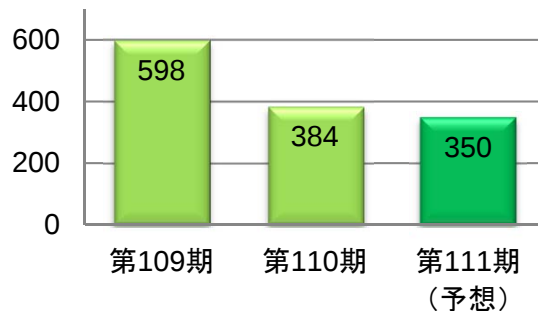
【第111期業績予想】

- 売上高：12,200 百万円（前期比 3.4 % 減）
- 営業利益：350 百万円（前期比 9.0 % 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 食品用包材については、下期より「レンジD。！ ワイドタイプ」を投入。魚の切り身やソーセージ等、対応食材が拡がり、PB商品で採用へ。上期の不振挽回を見込む。
- 医薬・医療用包材については、「テクニフィルム」の受注は前期並み。洗剤・トイレタリー用包材は回復を見込む。
- 精密機器その他の包材については、「エアロテクト」の主要ユーザーの使用量削減が影響し、減収の見込み。
- 主要製品の受注回復の遅れにより、減益を見込む。

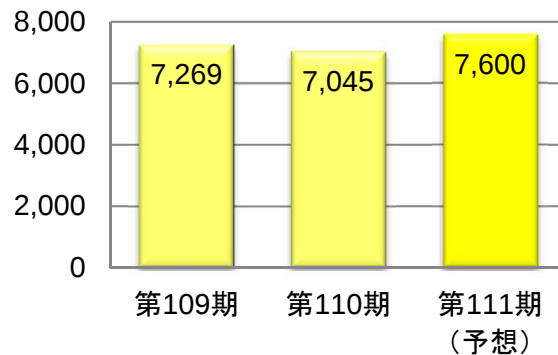
第111期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

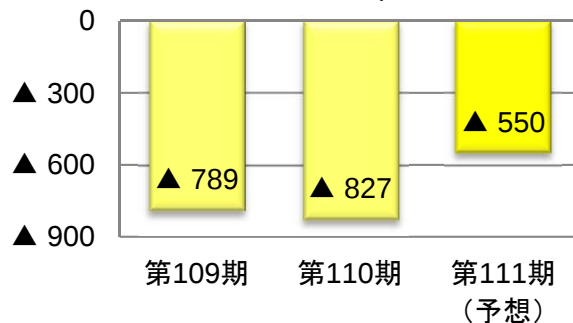
【第111期業績予想】

- 売上高： 7,600 百万円（前期比 7.9% 増）
- 営業利益：▲550 百万円（前期実績 ▲827百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、上期の状況（合理化に伴う価格対応と、顧客である国内テープメーカーの拡販）の継続が見込まれ、増収を見込む。
- 剥離紙については、FPC用工程紙が受注回復の見込み。炭素繊維プリプレグ用工程紙は拡販途上にあるが、剥離紙は総じて堅調で増収を見込む。
- 掛川工場WEST減損に伴う償却費の減少、原材料コスト低減及び生産合理化により、営業損失縮小を見込む。

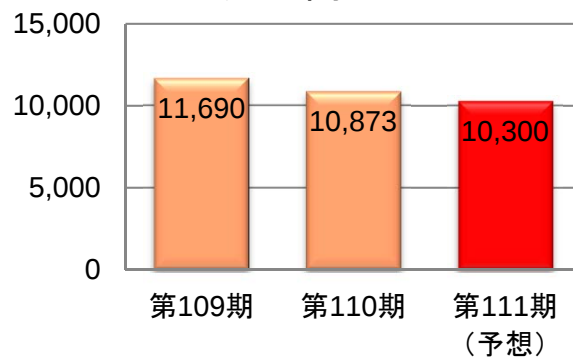
第111期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

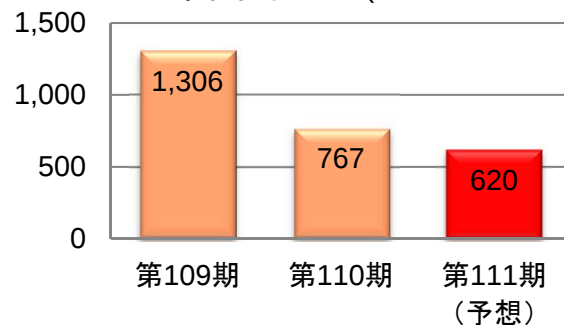
【第111期業績予想】

- 売上高： 10,300 百万円 （前期比 5.3% 減）
- 営業利益： 620 百万円 （前期比 19.3% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

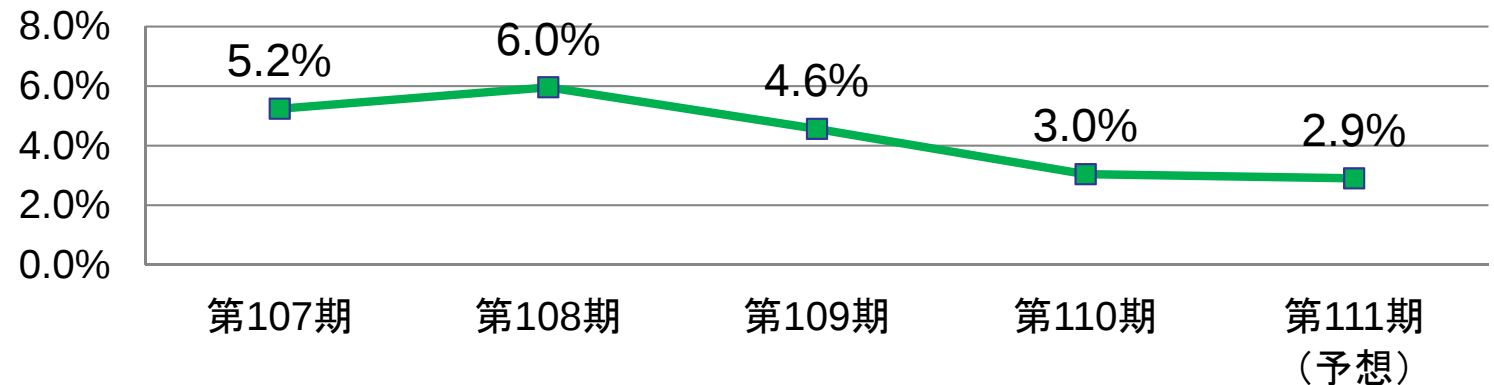


- 液晶パネルの主要生産国で過剰在庫が顕在化。生産調整長期化で、テレビ向けは受注減少の見込み。
- スマートフォン用の表面保護フィルムについては、新規の開発案件が立ち上がり予定。スマートフォン市場の復調もあり、受注回復を見込む。
- サニテクトについては、下期に「NSタイプ」の回復を見込むも、他社製2層押出しタイプへの置替えの影響を受け、受注減少の見込み。
- スマートフォン用の回復で徐々に営業利益持ち直しへ。

第111期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

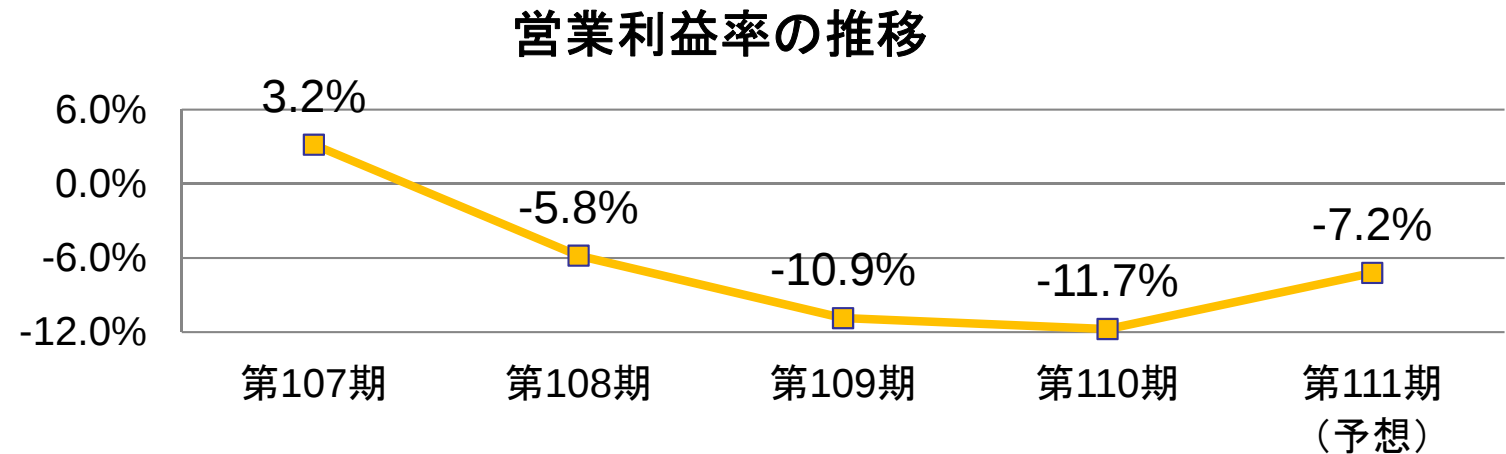
営業利益率の推移



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 当社が強みとする製品（レンジD○！、エアー緩衝材等）の改良・開発を進め、製品の収益力を高めるとともに、新規ユーザーを開拓し、利益率の回復を図る。
- 顧客のニーズに対応した商品を絶えず開発することで、競争力を高め、シェア拡大と収益性向上を図る。
- 海洋プラスチックごみ問題に対処するため、紙や生分解性プラスチック等を主原料とする包材の開発や、リサイクルしやすいモノマテリアル（単一素材）化に取り組む。

第111期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

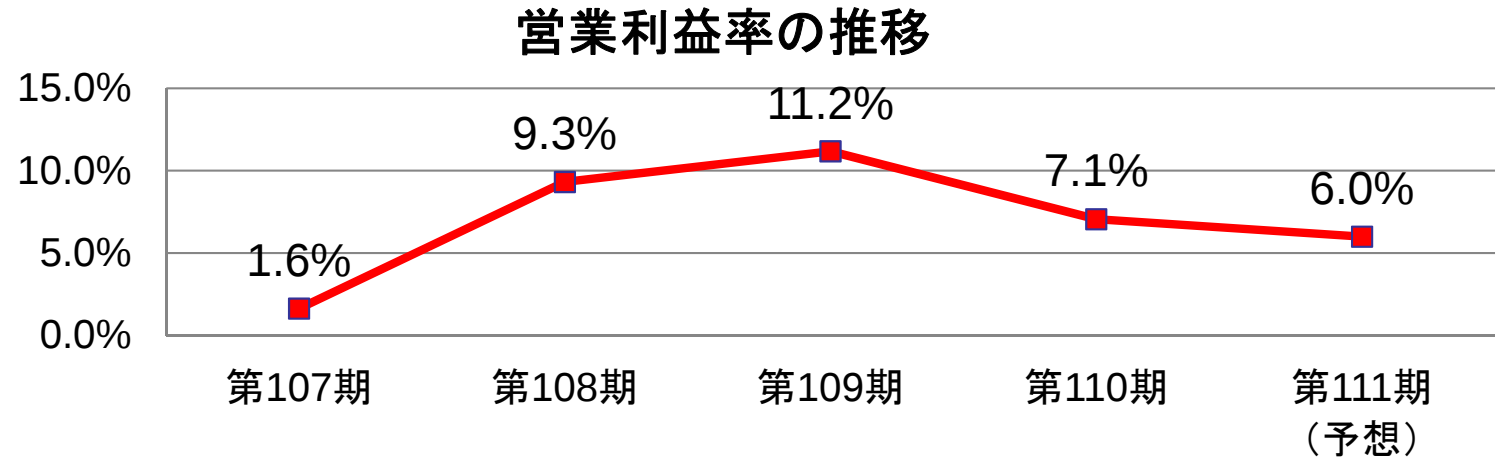
産業資材



- 高収益分野への展開と生産体制の再構築によって、収益構造の転換を図る
- 掛川工場WESTを中核とする生産体制を確立し、品質、納期面で顧客満足の上昇に努め、売上回復を目指す。
- FPC用工程紙の製造工程見直しと新タイプの開発、炭素繊維プリプレグ用工程紙の用途拡大を推進し、受注増加と収益性改善によって早期に収支均衡を図る。
- 本格参入途上のメディカル分野に一層注力するとともに、その他未開拓の分野においても製品開発に取り組み、新たな成長の足掛かりを築く。

第111期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料



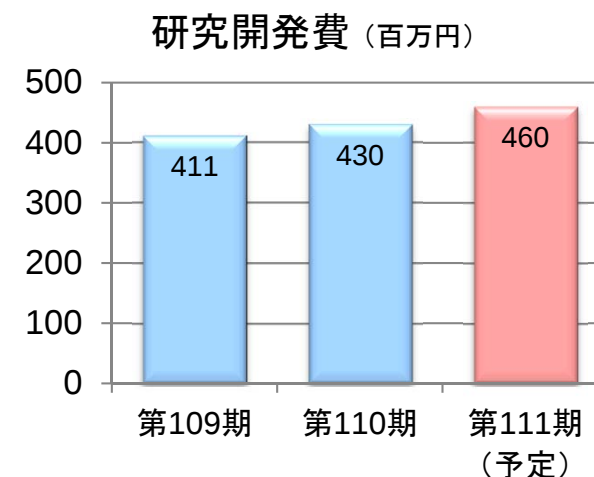
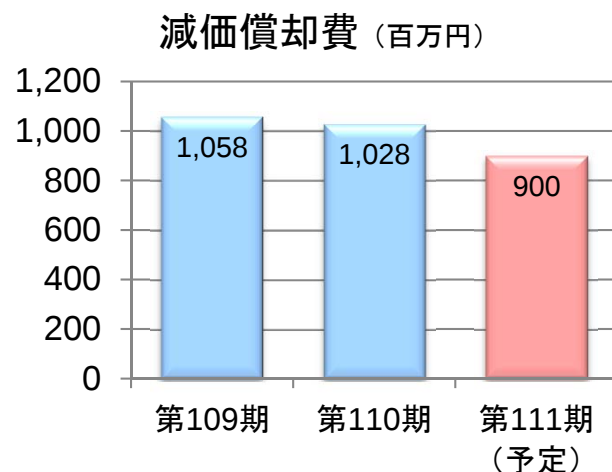
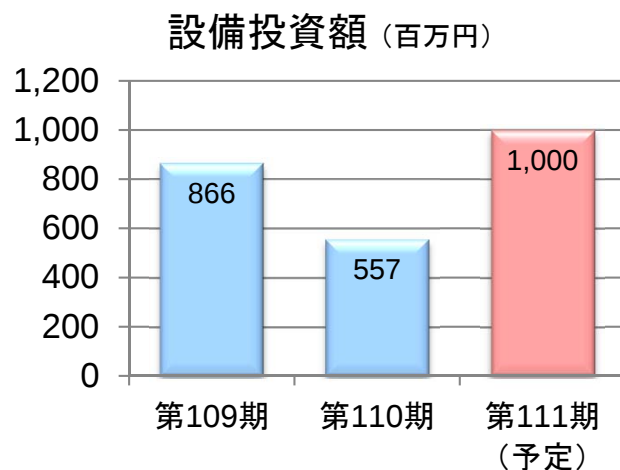
- 技術・品質・顧客対応の強化によって、安定的に高収益を維持する
- 今後高度化する顧客要求に対応するため長鼎電子材料の技術サポートを強化。品質及び技術水準の向上を図り、当社グループ製品のシェア拡大に努める。
- 顧客密着型の開発態勢をより強化して、光学用途のニッチな分野においても、新製品の開発段階から顧客との協業関係を構築し、将来の受注機会を確保する。
- 「サニテクト」、「PAC」については、光学用途以外の分野の開拓、拡販を進め、液晶パネル業界の市況変動に対する影響緩和を図る。

第111期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

科 目	2018年3月期 (第109期)	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期) (予定)	備 考
設備投資額	866	557	1,000	製袋機増設、設備の改造 制御機器、空調機、サーバー等の更新
減価償却費	1,058	1,028	900	掛川工場WESTの償却の進行と減損により減少
研究開発費	411	430	460	既存分野、新規分野で試作費、試験費の増加を見込む

設備投資額は無形固定資産を含まず 百万円未満切捨て



目 次

4. 参考情報

- 新製品紹介
- 基本情報

参考情報: 新製品紹介 1

■ ナノファイバーを用いた油吸着材 (商品名: 油取り世代^{ゆと})

◆ 開発経緯

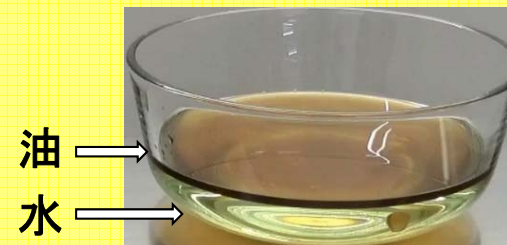
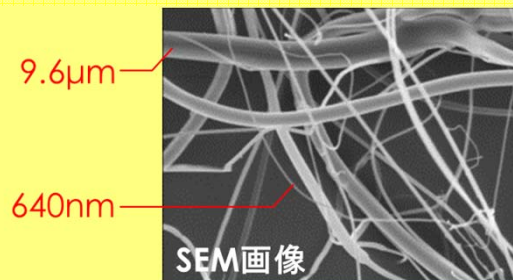
当社がこれまで培ってきたコアテクノロジーの一つである「押出し技術」に新たな加工技術を取り入れ、ナノファイバー繊維の生成を可能にしました。

当社は、このナノファイバーを用いた新製品第1弾として、油吸着材を開発しました。

◆ 特長

- ・ポリプロピレンを素材とし、細かな繊維に加工して絡まり合わせた綿の形状。
- ・繊維の径がナノレベル(500~900nm)と非常に細く、他社品よりも油吸着性能が高い。
- ・水をほとんど吸着せず、油を選択的に吸着させることができる。
- ・自重の最大30倍まで吸着可能(製品33gで油を約1Kg吸着)

使用済み油を効率的に分別廃棄 環境汚染の軽減



吸着前

(見易くするため
着色しています)

吸着後

参考情報: 新製品紹介 2

■ 環境に配慮した包装材料

当社の子会社である東邦樹脂工業株式会社は、プラスチック素材の使用量を大幅に削減した環境にやさしい紙製包装材料を開発しました。

◆ 特長

- ・ヒートシール機能をもつ水性塗料をコーティングした紙製包装材料。
⇒樹脂やプラスチックフィルムをラミネートすることなく、ヒートシールが可能。
- ・プラスチック被膜のない紙を基材としている。
⇒古紙回収によるリサイクルが可能。



CO₂排出量や海洋プラスチックごみの削減に寄与

今後は、バリアコート紙や生分解性プラスチックとの組み合わせにより、多様な用途展開を図る。

参考情報: 基本情報

商 号
証 券 コー ド
設 立
代 表 者
事 業 所

株式会社 サンエー化研
4234 (JASDAQ スタンダード)
1942年9月 (昭和17年9月)
代表取締役社長 山本 明広
本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良
野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)
【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)

資 本 金
事 業 内 容
連 結 従 業 員 数
決 算 期

研究開発拠点 : 掛川
21億76百万円
高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
671名 (2019年9月30日現在)
3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(12月4日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp